

「新たな形態」について

2026年9月8日 執行役員会

2026年9月9日 常任幹事会

中道改革連合は、本年1月15日の結党以来、リベラル・穏健保守などを幅広く含む中道勢力の結集体として、政権を担い得る政治勢力となるべく活動してきた。

まず、中道改革連合、立憲民主党、公明党が一つになるという形を実現できなかったことについて、中道改革連合に一票を託してくださった皆様、さまざまな形で活動を支援してくださった皆様に、心からお詫び申し上げます。あわせて、今日までのご支援とご期待に、改めて深く感謝申し上げます。

私たちは、中道勢力を拡大し、政権を担い得る政治勢力を形成することを国民の皆様と約束し、本年2月の衆議院総選挙を戦った。

結党時には、総選挙の後、立憲民主党・公明党の参議院議員などが中道改革連合へ組織的に合流することが予定されていたが、3党の協議の結果、その前提は大きく変わった。

しかし、その約束と託された一票の重みを考えれば、3党合流が実現しなかったからといって、この歩みを終わらせるわけにはいかない。社会の多様性や個人の尊厳などを守り抜こうとする中道政治の旗を、より一層高く掲げていく決意に、微塵の揺らぎもない。

その決意のもと、国民の皆様との約束を果たすため、中道改革連合に集った仲間が、それぞれの基盤と強みを生かして再起動し、共通の基本政策のもとに前進していかなくてはならない。

今後、下記の方針に基づき、「新たな形態」に移行する。

記

1. 中道改革連合所属の衆議院議員は、結成する新党への結集や公明党への再結集等を通じ、それぞれの基盤と強みを生かして、中道政治を前進させる。

2. 次期臨時国会において、新たな中道勢力の結集体として、衆議院内において会派「中道」を結成する。

3. 新たな形態への移行後も、中道政治の実現と中道勢力の拡大に向け、国会内だけでなく、政策立案、選挙活動はじめ全ての政治活動において最大限の協力を行う。

4. 中道改革連合は、党所属国会議員1名を残し、当面の間、政党として存続し、清算活動を完了した後、最終的な組織整理を行う。

5. 中道改革連合は、最終的な組織整理にあたり、総支部長の意思を確認しつつ、政党支部の解散までの間、その活動を支援する。また、本方針に沿って活動継続の意思がある総支部長については、その実現に向け最大限努力する。

以上